

平成 26 年度 法科大学院（法務研究科）入学試験

刑 法 問 題 紙

B日程

平成 25 年 10 月 27 日

15 : 15～16 : 45 (90 分)

(120 点)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開いてはいけない。
2. 刑法の問題紙は 1 ページのみである。
3. 解答用紙は、問題 1 と問題 2 の 2 枚である。解答用紙の追加は認めない。
4. 解答用紙は 2 枚ともかならず提出すること。
5. 監督者の指示に従い、すべての解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
7. 試験終了まで退室してはいけない。

北 海 学 園 大 学

問題 1 (60 点)

甲は、近くのコンビニで買った缶コーヒーを飲みながら帰宅するため歩道を歩いていたところ、後ろから自転車に乗ったVがすぐ近くを追い越していったため、驚いて持っていた缶コーヒーを落としてしまった。甲は、Vを呼び止め、自転車を降りて謝罪をするよう求めたが、Vはそれを無視して立ち去ろうとしたので、いきなりVの左頬を手拳で1回殴打し、直後にその場を走って立ち去った。Vは、いきなり殴りかかった甲に腹を立て、「待て」などと言いながら自転車で甲を追い掛け、追い越しざま右腕を水平に挙げて後方から前を出して甲の首筋付近を強く殴打した。甲はVの攻撃により前方に倒れたが、すぐに起き上がり、護身用に携帯していた特殊警棒を取り出し、Vの顔面や手を数回殴打して、Vに加療約3週間の傷害を負わせた。

甲の罪責を論ぜよ。

問題 2 (60 点)

甲は、家庭裁判所により、居を共にする叔父Aの成年後見人に選任され、その財産管理等の業務に従事していた。甲は、事業に失敗しサラ金に200万円の借金を背負ったため、Aの財産を担保に借金の返済に充てようと決意した。甲は、知人のBから400万円を借り受け、同時に、自己が権利証等を管理していたA所有の土地(時価約500万円)について、Bとの間で抵当権を設定し登記も済ませた。しかし、甲は、Bから借り受けた400万円でサラ金の借金を返済したものの、事業は好転せず、返済期日までに、Bに借金を返済することができなくなった。そこで、甲は、上記土地を売却してBの借金を返済することを決意し、Cに上記A所有の土地を売却し、Cに所有権の移転登記をした。

甲の罪責を論ぜよ。